



中村みえ後援会通信

ひまわり新聞

VOL. **3**

2018年12月

中村みえ後援会事務所 〒283-0066 東金市南上宿 16-13 Tel.0475-55-5737 発行者/神谷美咲



ごあいさつ

このたび「ひまわり新聞」VOL. 3を発行することになりました。
日ごろよりの皆さま方のご支援、ご理解に、心より感謝申し上げます。
今後とも、一人でも多くの方々が「住んでよかった、これからも住み続けたい」と思える、
ふるさと東金市にすべく、市民福祉・サービスの向上に努めてまいります。
初心を忘れず、市政発展のため、全力で働いてまいりますので、さらなるご支援、ご理解の
ほど、何卒よろしくお願いいたします

東金市議会（6月・9月・12月）定例会 一般質問質疑

6月定例会一般質問

2項目について質問

1. 東千葉メディカルセンターについて
2. 子育て支援について

「今後の病院経営について」

質問：東千葉メディカルセンターの経営状況が厳しいなか、近隣自治体や東千葉メディカルセンターが属する山武長生夷隅保健医療圏内の自治体からの支援についての市長の具体的な考えを伺う。

答弁：東千葉メディカルセンターにつ

いては、設立の経緯から、法人、設立団体である本市及び九十九里町により、千葉県からの病院開設経費に係る財政支援や人材確保などに係る支援を受けたなかで運営をしていくとの考えのもと、第3期中期計画の策定において今後見込まれる財源不足額に対する追加の財政支援を千葉県へ求めることとしている近隣自治体等からの支援については、東千葉メディカルセンターが属する山武長生夷隅保健医療圏において、関係医療機関との連携の強化や役割分担の明確化などにより、中核病院として

の機能の定着化を図っていくなかで、千葉県とともに救命救急センターの運営に関する支援の理解・協力を求めていきたい。

私の思い：この地域で欠落していた救急医療の問題の質を、向上していく、それは経営改善と言う名のもとに、救急医療を安易に縮小するということではなく、そして、設立当初の志を脱ぎ捨てることなく、この救急医療を貫き、救急医療、急性期医療を核とした地域の中核病院として、お育ていただきたいと思います。

9月定例会一般質問 (個人質問)

4項目について質問

1. 市長のめざす千葉県子育て環境ナンバーワンについて
2. 東千葉メディカルセンターについて
3. 外国人施策について
4. 安心安全なまちづくりについて

「子育て情報発信の充実について」

質問：市が実施する様々な子育て施策を分かりやすく情報発信するために、市のホームページ上に子育てに関する情報を集約したページを作成する考えはないか。また、子育て世代に

は、スマートフォンやタブレットにより、必要な時に必要な情報を取得したいというニーズもあることから、情報発信に子育てアプリが有効だと考えるが、導入する考えはないか。

答弁：本市では、電子媒体であるホームページ及び紙媒体である子育て情報誌「ひろば」により、子育て情報の発信を行っているが、今後も他市の事例を参考に研究し、現在の子育て情報誌やホームページが市民に分かりやすいものとなるよう必要に応じ内容を改善していきたい。また、子育てアプリは、スマートフォン等の普及状況を踏まえると、有効な情

報発信手段の一つであると考えており、既に導入している自治体の事例を調査研究し、導入の手法等を含めて検討していきたい。

私の思い：必要な情報を提供し、多くの市民の皆さまにみてもらえる、役立ててもらえる、子育てアプリを導入していただきたい。そして必要な子育て情報を満載、例えば、健診や予防接種の日程、助成などの手続きから医療機関情報、またお祭りやイベント情報、幼稚園や保育園の情報、そしてインフルエンザや風疹など感染予防などの情報などわかりやすくお伝えしたいと思います。

9月定例会一般質問

「多文化共生の推進について」

質問：本市にご登録されている外国籍の方の多くは城西国際大学の留学生という特性を積極的にとらえ、多文化共生のまちづくりを本市においても推進していかなければならないと考えます。そして、グローバル化の進展、人口減少対策及び2年後の東京オリンピック・パラリンピックをひかえ外国人住民の更なる増加も予想されます。国際交流協会を始めと

する民間のボランティア団体や市民の方々の中には、外国語に堪能な方もいるはずです。また、東金市には多くの留学生が学ぶ城西国際大学もあります。こういった方たちの力を更に発揮いただくよう連携を強化したり、新たな連携の仕組みを作ったりすることはできないのでしょうか？

答弁：幅広い分野で連携協力していくとともに、関係機関・団体と連携し、外国人留学生がその能力を活かして更に活躍できる場所や機会を提供できるよう検討してまいりたいと考え

ております。

私の思い：外国人の方に生活上のルールを十分にご理解いただくこと、これが外国人も安心安全に暮らすために最も大切なことだと思います。また、地震や台風等の災害時の対応として外国人への防災知識の普及や災害が起きた際の迅速・確実な情報伝達が、今、特に求められます。そして、そのために必要な支援を充実させる、そうすることにより、東金の地域が多様性をまちの力にすることができるのではないかと思います。

12月定例会一般質問

1項目について質問

1. 市長のめざす千葉県子育て環境ナンバーワンについて

「子育てアプリ（電子母子手帳）の導入について」

質問：子育てをしている、あるいはこれからするであろう若い世代は、日常的にSNSで情報交換をしており、スマートフォンは大変身近で便利な存在です。先進的な自治体では「電子母子手帳」という名称の子育てアプリを使い、子育てをしている方々に情報発信を行っている。これは、従来の母子手帳に代わるものではないものの、紙の母子手帳を補完して、

子どもの成長記録を手軽で簡単に管理でき、予防接種などの重要なイベントも忘れることのないよう管理できる大変便利なもののようです。このような便利なアプリを導入し、子育て世代にアピールしていくことが子育て環境ナンバーワンに向けた取組となるのではないのでしょうか。

答弁：スマートフォンなどが普及している状況を踏まえ、有効な情報発信の手段の一つであり、先進事例の研究を通し、検討して参りたい。

私の思い：子育て支援は課題ではなく将来に向けた大切な投資です。税金を納めていただいている市民の皆さまが都市部と遜色のない医療・教育・介護・そして子育て支援を実感できる環境をつくりあげることこそが東

金にずっと住み続けたいと思っていただけることだと思います。そして、子育て支援をめぐるこの自治体も「情報をいかに伝えるか」を大きな課題としています。子育て世代を問わず正確な情報を最適な形で伝えるツールとして「母子健康手帳アプリ」を提案し、改めて子育てアプリの導入について要望させていただきました。



TOPICS



ドリームベースボール(11/4)

少年少女野球教室では各ポジションごとにドリームチーム選手に技術指導をしていただきました。午後からはドリームチームと東金市選抜チームによるドリームゲームが行われ3000人のお客様の前での大接戦でしたが、結果はドリームチームが2対0で勝利しました。体育協会スタッフとして抽選会のお手伝いをさせていただきました。多くの皆さまにお越しいただき嬉しかったです！

11月4日、東金市青年の森運動公園野球場で宝くじスポーツフェア・ドリーム・ベースボールが開催されました。元プロ野球選手20人のドリームチームによる



印西市行政視察(11/21)

住みよさランキング総合評価7年連続日本一(東洋経済新報社公表)の印西市に(個人視察)行ってまいりました。財政調整基金、5年間うなぎのぼりといううらやましい限りの豊かな財政力と都心への便利なアクセスなど。本市とはおかれている状況は違いますが、良いところは研究し、協力をえて導入したい!という思いで、子育て支援と大学連携施策について勉強して来まし



さくら会 巻き寿司教室(11/15)

地元上宿区さくら会の巻き寿司教室でくまさんの巻き寿司を作りました。初めてでだいふくアタフタしましたが…完成後のくまさんに感激!また完成を予想しながら皆さまと作成していく過程がとても楽しかったです。そういえば、「絵巻きずしで地方創生をプロデュース!主役はあなたの町の女性たち」という地域活性化プログラムが紹介されていました。今度は東金の特産品でとっちー巻きに挑戦!してみたいです。

